



「啐啄同時」(そったくどうじ)

園長 笛木 哲

春から夏へと変わる時のキラキラと輝く太陽の下にただいるだけで、なんだかワクワクしてきます。入園進級して2ヶ月。子ども達は、新しい学年や幼稚園の生活に慣れ、これまで羊の皮を被っていた子が本来の姿を見せ始めました。6月が子どもたちにどんな時を刻むのか、どんな出会いがあり、どう成長していくのか楽しみでなりません。「余裕」が「油断」につながらぬよう心を配りながら保育を進めて参ります。

鶏の雛が卵から生まれ出ようとするとき、殻の中から卵の殻をつついて音をたてます。これを「啐(そっ)」と言います。そのとき、すかさず親鳥が外から殻をついばんで破る、これを「啄(たく)」と言います。そして、この「啐」と「啄」が同時であってはじめて、殻が破れて雛が産まれます。これが「啐啄同時」です。このことは鶏に限らず、親と子、子と保育者の関係にあっても大切な言葉です。



「園長先生見て。名前が書けるようになった!」と折り紙の裏に鉛筆で書いた自分の名前を誇らしそうに見せてくれた子がいます。一文字は鏡文字でしたが、〇〇〇(名前)と読めます。「上手に書けたね」と褒めると、毎日のように見せに来てくれます。ご自宅では、文字への関心を高める環境を整えたということでした。幼稚園でも担任との会話を重ね、文字を書くことへの意欲を示すようになりました。子どもの文字への興味関心の芽を見逃さず、環境を整え、意欲を引き出した「子と親」、「園児と保育者」相互の作用は、まさに「啐啄同時」です。

個人面談用のアンケートでは、年少から「文字指導」「英語指導」を取り入れて欲しいという要望がありましたが、特に学び初めの幼稚園児にとって、自ら学びたいという気持ちをもつことは何より大切です。子どもに任せていたのではいつ学ぶ気持ちが起きるか当てにならないから、強制的に環境を整えるという方法もあるでしょう。でも学ぶことへの気持ちの高まり(一人一人その時期は違う。だから親御さんは他のお子さんとは比べて焦ってしまうのですが)をしっかりと見極めてください。「今がチャンス」という答えは、子ども自身が持っているものです。子育ては、子どもを見守るゆとりと、時には待つ勇気も必要です。本園の教育課程では、英語は年中、文字は年長から学びます。英語を楽しむ年中さんの姿を窓越しに覗く年少さんの姿から、英語に対する興味関心が沸いていることがわかります。お手紙ごっこで、自分の代わりに代筆してくれている年長さんの横顔を見る年少さんの憧憬の表情は何とも微笑ましものです。

コロナ対策「マスクの着用」について

本園では、園庭での活動は『NO マスク』を推奨していますが、その他の場面ではマスク着用が基本です。年中、年長の園外保育(平成の森公園)では、暑い日だったのでマスクをとって散策させていただきました。そのことに関する苦情は一件もありませんでした。



先月、園庭で年長さんと一緒にお弁当を食べていた時のことです。隣に座っていた子がマスクを外した私の顔を見て、「園長先生の顔って、そういう顔だったんだ」と一言。「格好いい?」「ううん」というその後の会話はさておき、私がマスクを外すのは職員室で給食を食べる時だけです。年長児には、入園以来一度もマスクを外した顔を見せたことがないことに改めて気づきました。

5/20 厚生労働省はマスクを外せる場面の規準を発表しました。その中で、「幼稚園児については他者との距離にかかわらず、マスクの着用を一律には求めない」と小学生以上とは別の対応を示しました。これまでもマスクの有効性と共に、特に幼児期における常時マスク着用の課題が指摘されていたことから、一步踏み込んだ内容と感じます。これを受け本園では、保育中における『マスク非着用の範囲』について検討を始めました。新型コロナウイルスという未知のウイルスが相手ですから、マスクの着用・非着用についても様々なお考えをお持ちのことと思います。皆様の『保育におけるマスク着用・非着用』についてのご意見をお寄せください。私たちの判断の参考にさせていただきます。

なお、熱中症が予想される園庭活動時の保育者及びプール指導中の体操指導者は、マスクを着用しません。ご理解いただけますようお願いいたします。

子どもの「ことば」

- ・園庭を見ながら年長児が「園長先生は、いつお墓に行くの?」「(ドキッ)」保育者の手の甲の浮き出た血管を見て、「どうしてできるの?」と問う子に、「おばあちゃんになったからだよ」と答えると、「もうすぐ死んじゃうの?」
…とねがわ幼稚園には、咲き誇る命と、もうすぐ枯れ衰える命が共存しています。
- ・「もも組は楽しいよ」と笑顔で答える年少児に保育者が「桃組には桃太郎がいるの?」と問うと、真面目な顔で「いないよ。だって写真を撮った時、写っていなかったもの」
…事実をもつて的確に答える年少児の姿を思い浮かべるとなんとも微笑ましい。
- ・(保育日誌から) にじみ絵に挑戦した年中さん。描いた絵が水でにじんでいく様子に、「とけている」と表現していました。 …水性ペンのインクがにじむ様子を自分の知っている全ての言葉の中から一番近い言葉を見つけ、表現したのでしょう。
- ・(イチゴ狩りから帰る年長児がバスの中で)「また来年もイチゴ狩りのときだけ、小学校を休んで来るんだ」と。保育者が「勉強は大丈夫なの?」と聞くと「まかせて」。「料金がかかるよ」と伝えるとすかさず、「お金は園長先生が出してくれるよ」
…そういう計画があるなら今からお金を貯めておかななくてはなりませんね。



セブンイレブン埼玉川島店(中山)に、年中、年長の子ども達が描いた「家族の絵」が飾られる予定です。6月20日頃から7月15日頃まで。

